

令和6年度「若年技能者人材育成支援等事業」推進計画

長野県技能振興コーナー

1 地域における技能振興事業

(1) 技能五輪全国大会の予選の実施等

ア 技能五輪全国大会の予選の実施

技能五輪全国大会の長野県内における予選会を実施します。
実施に当たっては、長野県職業能力開発協会との共同で実施することとし、企画内容についても同協会と協議します。

(ア) 過去の実施状況や関係者の状況を踏まえ、「日本料理」職種、「電気溶接」職種について予選会を予定します。

予選会の参加予定者数、実施予定時期は次のとおりとします。

実施予定職種	「日本料理」職種	「電気溶接」職種
参加予定者数	3名	10名
実施予定時期	5月中旬	12月上旬

(イ) 予選会参加者からは参加手数料を徴収します。

参加手数料の額は、技能検定を予選会とする職種との公平性の観点に立ち、本県における2級技能検定実技試験受験手数料の額(若年者減免措置後の額:9,200円(税込))を参酌するとともに、ものづくりマイスターの派遣による実技指導に係る材料費(2,000円)を参考として設定します。

イ 技能五輪全国大会及び若年者ものづくり競技大会への参加支援の実施

技能五輪全国大会及び若年者ものづくり競技大会への参加経費を援助し、中小企業等の大会参加を促進するとともに、若年者の技能レベル向上等に資することとします。
コロナ禍の令和2年度を除く過去3年間の平均実績や、技能五輪全国大会が隣県での開催となること等を踏まえ、予定する援助対象者は次のとおりとします。

区 分	選 手	指 導 者
若年者ものづくり競技大会	3名	3名
技能五輪全国大会	27名	23名

(2) 卓越した技能者(現代の名工)の表彰制度の紹介コンテンツの作成支援

令和6年度の卓越した技能者(現代の名工)の表彰の被表彰者の技能を紹介するコンテンツの作成支援として、センターが示す編集方針に沿って被表彰者に対して取材を行い、取材結果をセンターに提出します。

(3) 「地域発! いいもの」応援事業及びグッドスキルマーク事業の休止に伴う対応

両事業のいずれかの認定を受けた事業者から認定内容の変更・廃止等の相談を受けた際は、状況を説明の上、センターに問い合わせるよう伝えます。

2 ものづくりマイスターの認定、登録に関する業務等

(1) ものづくりマイスターの開拓等

事業推進員2名が月に各5回、計10回ほど企業・業界団体への訪問を予定して開拓に努め、仕様書別紙2で示された新規認定数9名の達成を目指します。ものづくりマイスターの少ない職種(例:電子機器組立て、電気機器組立て 等)についての開拓や、地域バラ

ンスに配慮した開拓(掘り起こし)に重点を置いて取り組むこととします。

また、過去3年間に一度も活動実績がない状況となったものづくりマイスターに対して、引き続き活動する意思があるか否かを確認し、ないときは登録解除の手続を行います。

(2) ものづくりマイスターへの説明

認定を受けたものづくりマイスターに対し、認定結果を通知する際に、実技指導等に当たる前に指導技法等講習を受講する必要がある旨を連絡します。併せて実技指導の結果報告作成事務等についても指導技法等講習等において説明する旨を周知します。

(3) 申請書類等のとりまとめ

ものづくりマイスターの認定申請書の受理業務を行い、申請書類はコーナーが取りまとめてセンターに提出します。

(4) ものづくりマイスターに対する研修

ア 研修の開催頻度や時期

年2回程度を目安として、指導技法を学んだ講師による講義形式により、新たに認定されたものづくりマイスター及び未受講者を対象とした研修を実施します。

実技指導の結果報告作成事務等についても併せて説明を行います。

イ 研修内容

研修は、中央技能振興センターにおいて作成された教材等を活用して実施し、ものづくりマイスターによる指導技能が全国的に均一化できるよう努めます。

併せて個人情報保護、セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの防止、及び活動する際の条件等について説明します。

ウ 交通費の負担

指導技法等講習及びその講師養成研修に参加する者に対して交通費を支給します。ただし、受講手当は支払わないこととします。

エ センター主催「事例発表・意見交換会」への参加

センターが主催する「事例発表・意見交換会」へも2名程度が参加できるよう、東京都に参集しての実施となった場合も含め、積極的に参加勧奨を行います。

3 ものづくりマイスターの活用に係る業務

(1) 若年技能者の人材育成に係る相談・援助等

中小企業等が若年技能者の人材育成に積極的に取り組むことができるよう、「若年技能者の人材育成に係る取組方法への相談・援助」、「訓練施設・設備等のコーディネートや実技指導等の相談・援助」を行うとともに、「ものづくりマイスター等の派遣やそのためのコーディネート」等を行います。

その際には、中小企業等の指導ニーズを的確に把握し、ものづくりマイスター等の適切なマッチングを行います。

このため、事業推進員を配置して企業等に出向き、相談支援、制度の説明、ものづくりマイスター等の派遣コーディネート等を行います。

(2) ものづくりマイスターの派遣による指導の実施

ア 派遣目標

①中小企業への派遣	活動数	2,590人日	派遣日数	700日
②業界団体への派遣	活動数	600人日	派遣日数	120日
③工業高校等への派遣	活動数	1,200人日	派遣日数	200日
④イベントエリア等への派遣	活動数	100人日	派遣日数	4日

計 活動数 4,490人日 派遣日数 1,024日

イ 目標設定の根拠

令和5年度は、令和4年度に引き続き翌年度は受講できない見通しであったことから、1講座当たりの受講者数が比較的多い傾向がありました。

令和6年度は、翌年度の受講も可能となることから、1講座当たりの受講者数は減少する可能性は大きいですが、令和4年度に実施した企業に加えて令和5年度に実施した企業からの派遣要請が見込まれ、派遣企業数は増加すると思われます。また、新たな派遣先の開拓も引き続き重要です。

これらのことを踏まえつつ、過去の派遣実績を参考としながら算出しました。

また、イベントエリア等への派遣については、開催場所等の情報収集を行いつつ随時対応することとし、小規模なイベントを4回ほど想定して算出しました。

ウ 目標達成に向けた取組

上記の目標を達成するため、令和4年度から取り組んでいる、商工会、商工会議所、中小企業団体中央会等や中小企業支援を本業とする「信用金庫」との連携を引き続き維持するほか、令和5年度から取り組んだ長野県工業技術総合センターが発行しているメールマガジンへの情報の掲載によって、まだ制度を活用していない中小企業・業界団体等に対し、制度の周知やものづくりマイスター活用事例の紹介を行うほか、反応のあった企業について個別に訪問・提案を行うなど、より多くの企業等が本制度を知り活用できるよう引き続き取り組みます。

なお、令和6年度から毎年度の連続派遣が可能となり、令和4年度に実施した企業に加えて令和5年度に実施した企業からの派遣申請も見込まれますが、漫然と連続派遣を行うのではなく、要請のあった企業に対してその必要性と効果などを十分に確認した上で効果的な派遣指導を行いつつ、目標を確実に達成できるよう取り組みます。

また、令和6年度から実施可能となった「技能五輪全国大会等に係る指導」についても有効な活用に努め、参加者及び入賞者の増加を図ります。

さらに、令和5年度から指導上の留意点となった「指導内容がどのように職業に結びつくのか」「当該職業で必要とされる技能のどの部分を修得・体験しているのか」については、工業高校等学校における派遣指導の場合は「ものづくりの魅力発信」とは異なり、すでに多くの受講者が承知の上で受講しているところではありますが、指導内容や受講者の状況によっては対応が必要な場合も考えられることから、引き続き講座を調整する際にマイスターに趣旨を伝え、適切に対応できるよう努めるものとします。

(3) 若者に対する「ものづくりの魅力」発信

ア 地域若者サポートステーション事業の支援対象者に対する「ものづくりの魅力」発信の実施

地域若者サポートステーションから要請があった場合には、事前にマイスターへ必要な説明等を行うとともに、サポステ職員の立ち会いの上で派遣指導を行います。

【派遣目標】 活動数 10人日 派遣日数 5日（要請の状況に応じて実施）

イ 小中学校等の児童・生徒に対する「ものづくりの魅力」発信

令和5年度から復活した本事業については、復活が明らかとなった時点で令和3年度まで実施していた小学校等へ呼びかけを行いました。すでに年間計画や予算等が定められており実施に至りませんでした。令和6年度においては実施が見込まれることから適切な調整を行い、効果的な実施に努めます。

また、本県においては県の事業として「信州ものづくりマイスター」を登録しているほか、令和6年度から小中学校における「職業体験」などが充実されることから、調整を図りながら適切な実施に努めます。

【派遣目標】 活動数 150人日 派遣日数 5日（小学校の状況に応じて実施）

(4) 熟練技能者等による派遣指導及び「ものづくりの魅力」発信事業の実施

ものづくりマイスターの対象分野に該当しない職種等について、中小企業・業界団体又は工業高校等から実技指導の要請を受けた場合は、熟練技能者等の派遣により若年技能者又は学生等の実技指導を行います。

【活動見込】 160人日

4 地方公共団体、経済団体等との連携会議の設置・運営

(1) 連携会議の設置

若年技能者人材育成支援等事業を円滑に推進するため、長野労働局、長野県・長野県教育委員会、長野県商工会議所連合会等の経営者団体、経済団体、高齢・障害・求職者雇用支援機構など26団体・機関で構成する連携会議を引き続き設置し、運営します。

(2) 連携会議の開催回数

連携会議は年2回開催し、開催時期・内容は次のとおりとします。

区分	開催時期	内 容
第1回	年度当初 (5月中旬予定)	令和5年度事業実施状況について 令和6年度事業推進計画について
第2回	年 末 (12月中旬予定)	令和6年度事業実施状況について 令和7年度に向けた改善事項

個人情報等の適切な取扱い及び漏洩防止を徹底するための措置

個人情報については長野県職業能力開発協会個人情報保護規程(平成29年2月1日施行)により適切な取扱いに努めるとともに、特に漏洩防止を徹底するため、個人情報に係るメール、FAX、郵便物等の送付手順及びアップロード手順を次のとおりとします。

1 「メール誤送付」関係

(1) 「メール宛名間違い」関係

宛先のアドレスをダブルチェックする。

(2) 「BCC ではなく TO、CC で誤送付」関係

①宛先が BCC かをダブルチェックする。

②送信宛先が複数の場合、強制的に BCC に変換するシステムを導入する。

(3) 「誤情報送付」関係

①文章及び添付ファイルが正しいかダブルチェックする。

②要機密情報を暗号化する。

③文章等のひな形を作成して、それをもとに作成する。(メールの使い回しをしない。)

2 「FAX 先の誤り」関係

①宛先、FAX 番号及び文章が正しいかダブルチェックする。

②FAX 送信後、履歴により送信状況を確認する。

③FAX に代えてメールを使用するように業務方法を変更する。

3 「郵送誤り」関係

宛先、文章及び、封入物が正しいかダブルチェックする。

4 「手渡し誤り」関係

手渡す物及び、手渡す先が正しいかダブルチェックする。

5 「誤アップロード」関係

アップロードする事項の内容及び、アップロード先が正しいかダブルチェックする。

6 その他

(1)～(5)に定めるものの外、個人情報等の適切な取扱い及び漏えい防止のために受託者としてあらゆる手段を講じる。

7 委託者への速やかな報告

情報セキュリティインシデントが発生した際は、委託者に速やかに報告を行う。

目 標

全体を通した成果目標及び活動目標は次のとおりです。

1 アウトカム目標（成果目標）		
(1) ものづくりマイスターの実技指導を利用した企業・業界団体又は教育訓練機関の満足度	満足度90%以上	
(2) ものづくりマイスターの実技指導の内容を理解し、今後に生かせるとした訓練生の割合	満足度90%以上	
(3) ものづくりマイスターの授業等への講師派遣を利用した学校の満足度	満足度90%以上	
(4) ものづくりマイスターを活用した企業又は業界団体が技能検定又は技能競技大会を人材育成に活用する契機となった割合	満足度90%以上	
2 アウトプット目標（活動目標）		
(1) ものづくりマイスターの認定者数	9人	
(2) ものづくりマイスターの活動数	4,650人日	
①中小企業への派遣		2,590人日
②業界団体への派遣		600人日
③工業高校等への派遣		1,200人日
④イベントエリア等への派遣		100人日
⑤サポステへの派遣		10人日
⑥小中学校等への派遣	150人日	
合 計	4,650人日	

